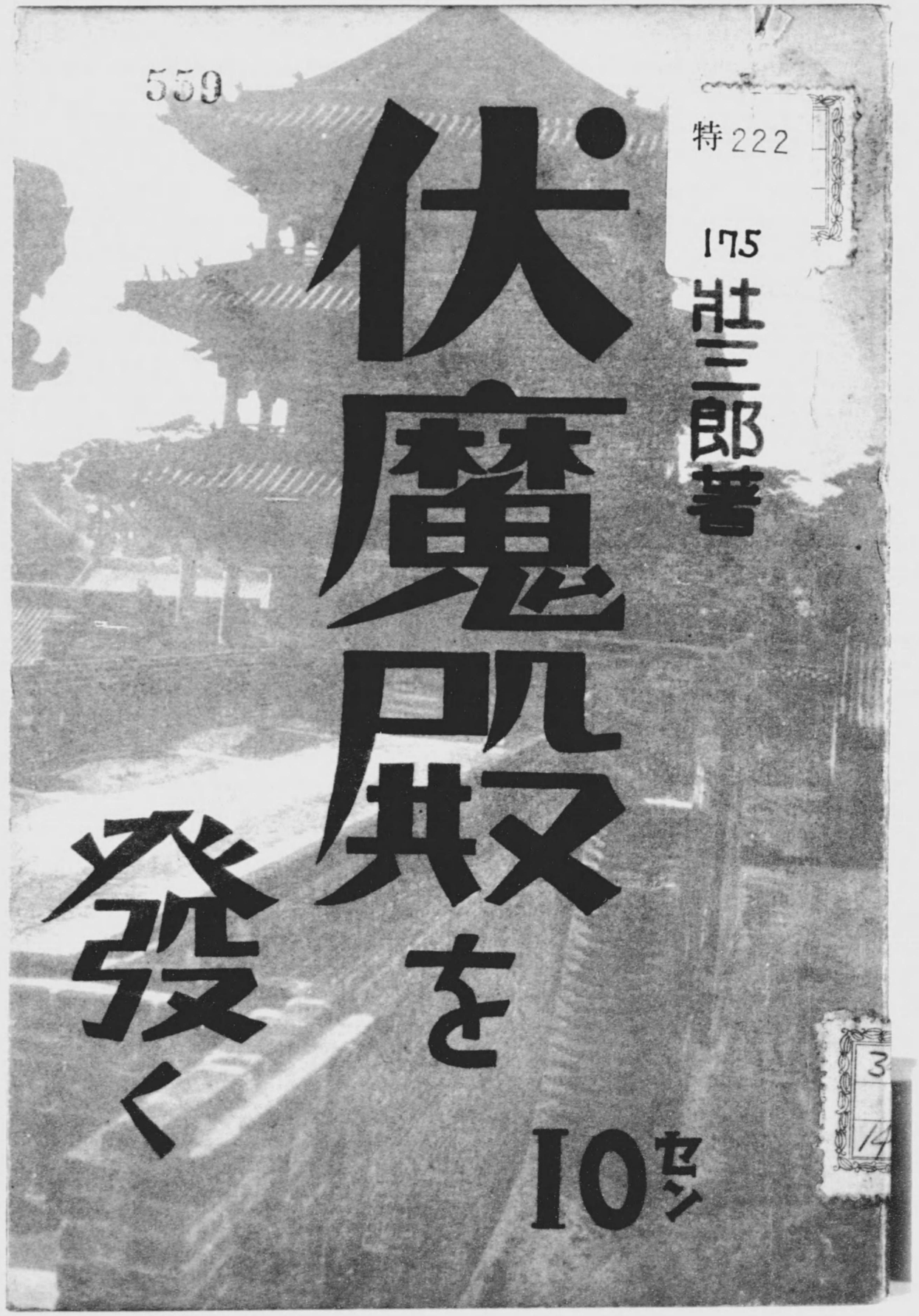

0003706000

0003706-000

特２２２－１７５

伏魔殿を発く

大友壯三郎・著

東亜書房

昭和１１

ABA

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２日けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです

特222
175

大友壯三郎著

伏魔殿を發く

東京 東亞書房

昭和文庫

序

伏魔殿と云ふと、甚だ穏やかでないが、要するに、疑雲に包まれたといふ意に解釋して頂きたいと思ふ。

現下日本に於ける、最大注視の表的になつてゐる、四方面を、茲に摘抉してみた次第だ。筆尖、鋭さを缺くは、禿筆の罪、御用捨を乞ふ。

大友壯三郎識

目次

一、財界の卷
不氣味な化物『經濟參謀本部』……（五）
二、學界の卷
學位論文にからむ謎……（一四）
三、官界の卷
內閣調査局を探る……（一三）
四、宗教の卷……（三〇）
一、成金宗教天理教を探る……（三一）
二、『神の靈統』女性群……（四三）

財界の巻

不氣味な化物『經濟參謀本部』

1

工業クラブや交殉社の大廣間は、日本財界の顏役のタマリであることは、萬人周知のことである。顏役といふものは、東西古今、その種類の何たるを問はず、エロが御好である。

彼等も御多聞に洩れず、その方面の猛者揃ひで、葉卷を薫しながら、Y談に相好を崩してゐるのであるが、彼等とて、二・二六事件以後は焦慮と不安に驅られない譯には行かなかつた。

左右兩翼からは事毎に白眼視され、內閣調査局の攻勢に、ダチ〳〵の形で、意氣頓に銷沈してゐた。

さうした彼等が、さりとてやめられぬY談の合間に、冗談とも眞面目ともつかず、苦しまぎれに考へ出したのが、最近喧しく議論され、國民注視の的となつてゐる「經濟參謀本部」案である。それは、五月二十二日、鄉誠之助の聲明が朝刊に掲載されるに及んで、漸く具體的なものに發展した。

元來、「財界の世話役」と稱される鄉誠之助は、財界の大顏なのだ。世話役といふのは卽ち顏である。

彼は、工業クラブを足場にし、更に商工會議所に覇を唱ふるに至る頃から、急激に政治的に進出し、押しも押されもせぬ大顏になり、最近三井を引退した池田成彬と共に、日本資本主義の總師、財界の總元締と目されてゐる男である。

何とは無理がきくから顏なのである。政界官界方面には無理がきいて、會社の生殺、紛爭に仲配的立場に立てゝこそ、顏なのである。

鄉は、大正十二年以來昭和九年まで、番町會を牛耳つて來た男である。

番町會が、如何に日本資本主義機構の醜惡な裏面を曝露し、國民大衆の財閥への信賴を失はしめたかは、今更喋々の要はない。

その鄉が音頭取りとあつては、「經濟參謀本部」の正體も、嘗つての財界の黑幕「番町會」と五十步百步のものであること、想像に難くない。

鄉は、古くは澁澤榮一、近くは井上準之助繼承者として、自ら任じてゐるのであるが、創業の方に於いては、遠く彼等先輩に及ばない。

ヒンデンブルグばりの御面相は、いかにも物凄くも珍らしいが、人間そのものは、「年をとつたお坊ちやん」にすぎない。

優れた手腕といへば、他人の仕事を奪つて大將に成ること、女漁り位のものだが、「お坊ちやん氣質」に彼の顏としての資格がある。

彼は哀を乞ふ者には、パツ〳〵と私財の千や二千は投げ出す癖があるので、取卷き定連のお太鼓實業家からは、素晴しい慈善家、大顏役に祭り上げられてゐる。それで良い氣に成つてゐる男であるから、決して惡者ではなからうが、それだけに危險な存在である。

2

二・二六事件以來、統制經濟の問題が、再燃した。

元來、統制經濟は、自由主義者からは、獨裁政治と結びつく經濟形態として斥けられ、資本主義の經營からは、資本の自由を約束し、經濟發展を抑止するものとして、排斥されてゐたものである。それが、急に人氣を捷ち得るに至つた。

しかし、統制經濟といふ言葉には、相當不明瞭な要素がある。

元來、それは外來語であるが、ドイツ語のプランウヰルトシヤフト(Planwirtschaft)、フランス語のエコノミー・プラニイフヱ(EconomiePlanifie)、エコノミー・デイリーヂヱ(Economiedirigee)、イタリー語のエコノミイア・コルポラテイヴア(Economie Corporativa)の、いづれにも共通點があるが、いづれとも異つてゐる。

從つて我が國に於ける統制經濟とは、ドイツの聯邦經濟會議やイタリーの全國協同組合會議、又はサヴイエツト・ロシヤの經濟參謀本部の主張する或は實行するところとは、異る種類のものである。

しかし、資本家の陣營を脅すものであることには、變りがない。

現に囂々たる贊否論難の泥中にある電力國營案は、その具體的表現の一である。これは政府の統制經濟の策源地內閣調査局の立案であること勿論である。もし、この案にして、成功すれば、

次に國家が統制經濟の大幟をふりかざして乘取るものは、軍需工業であらう。そして遂には、資本主義者は、實質上失職のアップ〳〵をしなければならないこと必定である。

かうした狀勢に抗して、資本主義の陣營を守護するため、財界の大顏役鄕が敢然として、提唱創立に邁進したのが、こゝに言ふ「經濟參謀本部」である。

かうした使命のもとに誕生を約束された經濟參謀本部は、我が國獨特のもので、前記諸外國の如き國家統制機關の誕生を阻止せんとする機關である。

從つて、新官僚の錚々たる才人資源局長官松井春生の唱導する「經濟參謀本部論」とは、正にその趣を異にするものである。

松井の經濟本部論は、諸外國に於けると同性質の國家統制案で、これによつて、政界同樣財界をも骨拔きにしようと考へたのである。

鄕は、これとは對蹠的な民營經濟參謀本部論を、子分の竹內謙三博士等の借智惠で、デツチ上げたのである。

そして、五月二十二日の新聞紙上の聲明となつた。

「資本は一億圓位欲しいところだが、場合によつては半分でもいゝし、また二、三千萬圓でも

よろしいと思ふ。」

と、彼は豪語し、三井、三菱も寄附金の點では、同意するであらうことを、顏役然と、自信有り氣に發表した。

鄉の人間が人間だけに、この聲名は忽ち資本家陣營に問題を投げた。

3

鄉は、退職積立金法案では、藤原銀次郎と一悶着起し、關東產聯の非難を浴びて間もないのに、この聲明を發したのである。

この聲明に嫌な顏をしたのは、鞆當の御本人藤原銀次郎である。三井、三菱も、趣旨には贊成しても、少しも色氣を見せない。

財閥轉向で、僞裝工作を施し、自動車工業、民間航空事業等々で犧牲的國家奉公に乘り出した三井、三菱等は、今更顏を潰した鄉のもとに結束する必要を認めなかつた。

しかし、群少資本家の、鄉に對する支持は豫想外に多く、每日激勵の手紙が舞ひ込み、軍部の某將校も、熱心な贊成者になつた。

それで、根がお坊ちゃんで威張りたがる鄉は、すつかり氣を良くして、全產聯や經濟聯盟の椅子など物の數でもない、と本調子に民間國策案の喧傳に乘り出した。

この時、全く彼に思ひがけなくも、二人の有力なる支持者が表はれた。

その一人は、現內閣の藏相馬場鉄一である。

彼は勸銀總裁時代から、興銀總裁の結城豐太郎とは、競爭相手で、仲が惡かつた。

二人は、共に廣田內閣に入閣の交渉を受けたが、結城は商工大臣の椅子に潔よしとせずして、入閣を拒絕したため、馬場は一足先に藏相になつた。

しかし結城は將來の藏相を目標に、興銀を背景に金融界に地盤を强固にし、馬場が職を辭して後、勸銀を背景に活躍するも、到底及ばない程のものにした。

この攻擊に不安を感じ焦慮に驅られた馬場は、これが對策に腐心してゐたが、遂に發見したのが、鄉の經濟參課本部である。

トラスト禁止問題、勞働協調問題、國營民營是々非々解決、重役賞與の抑制等々、それが文字通り實行に移し得なくとも、全產聯や經濟聯盟よりも、更に有力な機關になり得る可能性を認めると、馬場は積極的に支持の手をさしのべた。彼は將來、これを地盤に財界の顏役たらんと考へ

たのである。

・馬場から依頼されゝば、拒否出來ない立場にあるのが廣田弘毅である。彼も亦、やむなく、賛成したのである。

こゝに至つて、鄉の經濟參謀本部は最初とは可成り異つた性質のものとなつたが、元來が顏役たる鄉は、顏さへたてば文句はないのではないのである。

嘗つて藤山雷太を叩き落して、東京商工會議所會頭の椅子にフンゾリかへつた時、

「俺も凡ゆる道樂をしつくして、飽き〳〵して來た。以後道樂はやめにして、實業と政治に專念するつもりだ。」

と、看板を掲げて以來、さうした勢力を續けて來た鄉である。

更に、軍部が一枚加つて、いよ〳〵具體化するに至つては、鄉の得意思ふべしである。

4

鄉は、いよ〳〵時機を見て、寵愛の子分にして、東京瓦斯社長であり、三井、三菱双方の會社の重彼を兼ねる三坂孝を適任者として、三井、三菱にも積極的に働きかけさせ、つひに、さしも

難產だつた經濟參謀本部の成立を見るに至つた。

問題が問題だけに、世人の疑惑の焦點になることを極力避けて、極秘裡に秘密會議を重ね、つひに具體化したのであるが、腕にそれ〳〵勝手な野心を懷く寄合世帶だけに、その將來の活躍、暗躍は窺知すべくもない。

三井、三菱、住友、安田、大倉、川崎等の大財閥が、如何なる代表者をこの機關に參加せしめ、如何程の額の寄附に同意するか知らない。

しかし、この經濟參謀本部なるものは、正體杳として判明せず、參加するものが皆財界の一廉の顏であり、多少とも政府や軍部の一部に關係を有するとあつては、その將來は詢に不氣味な存在である。

しかも往年の番町會よりも合理性をもち、メンバーも活動範圍も、比較すべくもなく、廣大なものである。

學界の巻

學位論文にからむ謎

1

西九州の一角に、西洋醫學の日本に於ける濫觴の地として、傳統と權威をもつ長崎醫科大學が、醫學の伏魔殿としての醜惡な內幕を、白日下に曝露したのは、昭和八年十二月十三日の朝である。

當時は、今日程大學の沒落も叫ばれず、絕對淸淨な學府と信じられてゐただけに、世人の驚愕は大きかつた。

神聖なるべき學位論文審査機關が、學位疑獄事件の中心とあつて、中心人物の產婦人科教授にして、附屬醫院長だつた勝矢信司教授及び、寺尾敏行以下贈賄八博士が起訴され、法醫學教室教授淺田一、醫物學教室教授赤松宗二の依願免官となつた。

事件は、政治的に薄弱なこの地方だけで、全國的に擴大することなしに終焉し、これで大體鬼となつた

この疑獄事件は、近來にない醜惡事件として、新聞紙上を賑はしたものであるが、醫界の戊情を知悉してゐる者にとつては、別段驚愕に價するものではなかつた。それは醫界公然の秘密で、その基因は、意外にも學閥卽ち東大閥と京大閥の暗鬪にあるのであつた。

當時長崎醫大は、醫專より昇格して、未だ七年の歷史を有するに過ぎなかつたが、兩閥の暗鬪は激烈を極めてゐた。現職教授二十一人中、東大閥六人、京大閥十二人となつて、教授會が作られ、京大閥十二人中、七人までが三高出身で、病院長勝矢信司を中心に、事實上のヘゲモノを握つてゐたものである。

聖神なる象牙の塔と信ぜられてゐた長崎醫大は、この疑獄事件によつて、遺憾なく伏魔殿の內幕を曝露したが、それはたゞに長崎醫大のみのことではなく、東大醫學部初め各醫科大學も大同小異な存在であるのである。

今日に於いても、「博士マーケット」の非難を受けつゝも、さうした狀態にある。卽ち醫學界に於ける伏魔殿である。

さうした伏魔殿の本山とも言ふべきものが、東大醫學部と、京大醫學部なのである。

2

日本醫界の學閥もしくは黨派と稱されるものは、青山胤と北里柴三郎の對立に始まつた、と言はれてゐる。

これが表面化したのが、東大閥と傳研閥との抗爭であり、傳研閥は、明治三十一年京都醫科大學が創設されるに及んで、京大閥の合流を見て、强力なものとなつた。

東大閥、京大閥は、我が日本醫界に於ける二大勢力で、東大閥が封建的官僚的なるに對して京大閥は、初期に於いては、進步的にして民間學者にも學位を與へ、自由主義の色彩が强かつた。しかし、勢力が擴大强化されるに及んで、それも固定されるに至つた。

大正八年慶應義塾醫科大學が創設された時は、その大學教授は北里閥と京大閥で占められた。その時京大閥の一人に長崎醫專出身の博士があつたこゝから、以來長崎醫大は、京大閥が勢力を

得るに至つた。

この二大勢力はそれ〴〵自派の擴大强化をはかり、醜惡極る伏魔殿に發展するに至つたのである。

3

最近と限らず、醫學生が學位をとることは、至難な仕事である。それは、學問の研究のみによつて得られないからである。

神聖なるべき象牙の塔が伏魔殿と化してから、學位をとるためには、學生時代から特殊な戰術が必要である。

先づ教授が碁が好きなら碁に、テニスが好きならテニスに、俳句が好きなら俳句に熟達してゐなければならない。この場合、碁は遊戯のためではなく、テニスは運動のためではなく、俳句は藝術のためではなく、單に學位獲得の一手段として存在價値があるのである。

教室には教授の取卷連がゐる。彼等は皆、學問の研究よりは、教授の機嫌を取り結ぶことに、より多くの精力を費してゐる。

彼等は、教授の寵愛を得れば、やさしいテーマをあてがはれて、二、三年で學位が貰へ、その上大病院に就職の世話までされるのである。しかし、一旦教授の逆鱗にふれれば、恐ろしくむづかしい、教授自身にも手のつけられないやうなテーマをあてがはれて、五、六年かゝつて、苦心慘澹の結果、漸く學位が貰へても、就職の世話もされずに追放されるのである。

これ程の學問の墮落が、東大醫學部の教室にも京大醫學部の教室にも、公然と行はれてゐる。

しかも、所によつては、教室に、教授の私設秘書とも言ふべき古參の顏役がゐて、教授から研究のテーマが貰へない時は、その男に相談することになつてゐる。

醫學部の研究室といふところは、各人勝手な研究に沒頭するところでなくて、指導教授からの命令であるテーマだけを研究する自由だけを許されるところである。

半年たつても一年たつても、容易に教授からテーマを與へられない時は、教室員はこの顏役に相談する。すると、この顏役はその斡旋をしてくれるが、無料ではない。その教室員は、相當の謝禮をしなければならない。

この顏役は又、教授との間に介在して、就職口の斡旋もする。この場合、顏役への謝禮は別に、教授に五百圓位の現金を持つて行くことが慣例になつてゐる。

博士たる又、辛い哉である。氣慨や節操のある人間には、とても我慢が出來ない。

それに、一人の教授にだけ、御機嫌伺ひを怠らなければ宜いのではない。

學位を獲得するためには、教授會の全出席者の三分以上の教授の賛成投票を獲得しなければならない。それは、いづれの大學にしても相當の人數である。少くとも十七八人の教授を買收して置かなければならないことになる。

このためには、色々合理的な戰術が使用されてゐる。

特別患者を臨床の教授に、澤山世話して、教授に儲けさせたり、自分の患者に、患者の負擔で、教授の立會往診を、頻繁に依頼して、金儲けの世話をしたりする。

又、裕福な研究生は

「私の患者が、いろ〳〵と先生の御世話になりまして、漸く全快致しました。」

と、五十圓、百圓の謝禮を包んで、夜分秘かに、教授の門を潛つたりする。

かうしたことは、醜惡な會社、若しくは政黨等に行はれるならば、何等責むべき程のものでないかも知れないが、少くとも神聖なるべき學園、學問の自由、研究の自由をこそ表看板の象牙の塔に於いて、見るに於いては、默視すべからざる重大事である。

學問の殿堂は、正に妖怪變化の伏魔殿である。

實に、國家より高祿を食んでゐる教授達の使命は、醫學博士の創造にあらずして、大衆の疾病の豫防、治療の研究になくてはならない。

かゝる狀態に甘んずる教授達こそ、醫學を腐敗墮落せしむる張本人にして、國賊に等しい輩である。

4

何故に醫學の殿堂のみが、伏魔殿と化したか？　そして醫博濫造が行はれたか？

醫博の濫造は、今日初めて叫ばれることでなく、既に昭和九年の日本醫事新報にも、元京城帝大總長、志賀博士が、この問題を取りあげてゐる。

「狹い範圍を專門とする今の各教授が、二十人も三十人も、多きは五十人も六十人もの助手や研究生に對し、新しい研究問題を與へて、有益な論文を製し上げ、所謂學界に貢獻するといふやうな堂々たる研究が出來るものでない。教授自身の研究でさへむづかしき時代に、幾十もの研究が、一年、二年間で成し得らるべきものでない。それが一年千人以上の新博士が創造さるゝのであるから、イクラ辯解したつて濫造がないなんと謂へるものでない。」

正に志賀博士の言の通りである。

しかし、かうした現實を誘致した責任は、一般大衆にもある。それは一般大衆の學位ある醫師に對する盲目的な信頼である。

それが、醫博に市場價値を與へ、醫博になれば金にならう。」といふ觀念を、醫師に懷かしめ、「二年の歳月と二萬圓の金さへあれば、誰でも博士になれる。」と思ひ込ませる結果を生むに至つたのである。

さうした虚榮心をもつ學士亡者は、目的の爲めには手段も選ばない。贈賄の如きも敢へて辭せないのである。

かうした投機心に驅られた青年達の殺到する醫學の教室なるものは、恰も競馬場の如きものである。

これは醫界にのみ見る現象で、他の精神科學關係の分解には見ることを得ない。

醫界のみに、判然たる伏魔殿が嚴存する理由が、こゝにあるのである。

嘗つて、文豪夏目漱石は、博士號を辭退した。それは彼の純粹な學者としての良心であり、潔

辯であつた。

醫師たるもの、彼の學者として、又文人としての態度に見做ふべきである。

そして、一般大衆たるものも、徒に醫博のレッテルによつてのみ價値判斷をすることなく、その手腕によつてこそ、價値判斷をすべきである。

學位そのものは、官吏、軍人に於ける勳位と同樣な使命のもとに制定されたものである。それは、學術振興の手段としてゞあつて、決して營利手段としてゞはないのである。

醫師は勿論のこと、國民大衆も亦、この點に翻然として覺醒しないならば、醫界には、この醜惡極る伏魔殿は依然として、存在するであらう。

官界の巻

新官僚の伏魔殿内閣調査局

1

二・二六事件後、「庶政刷新」を表看板に、廣田内閣が成立すると同時に、「内閣調査局」なるものが、政治、財政の中心勢力として　表面に浮び上つて來た。

この内閣調査局は、昨今五月末、岡田内閣時代に、

「非常時日本の時局を克服するためには、綜合的な國策審議機關が必要である。」

との主張のもとに、内閣審議會と共に、それの下位に屬して、誕生したものである。だから別段ま新しいものではなく、誕生以來一年有餘を經過してゐるのであるが、内閣審議會が華々しく

論議の中心となつたにも拘らず、更に表面に表はれることがなかつた。

ところが、この盲腸のやうに存在を無視されてゐた、何かのおまじないのやうな機關が、俄然、問題視されるに至つた。

何故か？　それは、この內閣調査局なるものの正體が、卽ち近時急激に擡頭し、いよ〳〵橫暴の非難を浴びつゝある官僚の牙城であり、官界の伏魔殿であるからである。

新興產業に根底を置いて、一時榮華を極めた政黨は、五・一五事件を契機として、凋落し初め、それと同時に、政局には、現狀維持派と革新派の抗爭が表面化して來た。

新に成立した齋藤內閣は、フランス流の自由主義の影響を多分にもつ西園寺元老の意を體して、現狀維持派であつた。

そして、齋藤內閣を繼承した岡田內閣も亦、現狀維持派であつた。しかし、時流に投じた革新派の勢力は、この時旣に、現狀維持派に挑戰し得る程に絕大なものになつてゐた。

元來、齋藤內閣に農林大臣として、伊澤多喜男の斡旋で入閣した後藤文夫は、政友の代表鳩山文部大臣と對抗するための官僚派の代表だつた。彼は政黨を牽制するために荒木貞夫一派××に接近し、益々革新的色彩を帶び、岡田內閣に內務大臣として重きをなす頃には、隱然たる勢力を

藏する革新派の總帥だつた。新官僚派なる新進語が、ジヤーナリズムの表面に表はれたのは、此頃である。

後藤、現內閣調査局長官にして、當時の內閣書記官長吉田茂等は、純理的に國策審議を叫び、これに故永田鐵山中將等の陸軍主腦部が贊成した。

現狀維持派と革新派の抗爭は、數ヶ月に亘つたが、結局、兩派の主張を折衷して、內閣審議會と內閣調査局が、生れたのである。

2

內閣審議會は、岡田首相を會長に、高橋藏相を副會長に、政黨、財閥、貴族院から一流の人物十五名を拔擢して、現　維持派の强固なる陣營を築いたに反し、內閣調査局は、吉田茂が內閣書記官長から轉じて長官となり、その下に前資源局總務部　松井春生を首席に、大藏、內務、農林商工、陸軍、海軍の各省から、十五名の調査官を拔擢した。

そして、別に囑託として專門委員を置き、政友の少壯代議士、各省の新進氣銳の事務員、少壯有爲な學者等各分野の人材百二十名をもつて、これを構成した。

本據は、麴町區大手町の前帝都復興局あとの御粗末なバラックであるが、その目標は素晴らしいものだつた。

公然掲げられた看板は「資本主義の修正」と「統制經濟の强化」だつた。

それはそのまゝ新官僚派の主張だつた。

明治前半期の藩閥政治に代つた政黨が、勢力を失ふと同時に、メキ〳〵勢力の伸長をはかつて來た官僚は、齋藤內閣當時、議會に迫つて、身分保證に關する法律をつくらしめ、攻勢に轉じたが、いよ〳〵內閣調査局を根據として、そのヘゲモニーを確保せんとするに至つた。

3

吉田茂は、後藤文夫より二年程遲れて、明治四十三年大學を出、內務省時代には、床次、水野安達に可愛がられ、協調會の常務理事をした經驗もある珍らしい人物である。

從つて、彼は勞働運動の接觸もあり、勇氣も手腕もあり、青年團理事長田澤義輔と共に、新官僚派の中心人物である。

彼は後藤の推薦で內閣書記官長となつたのであるが、餘りに官僚色が厚で、閣僚連から敬遠され勝ちで、不遇だつた。調査局長に轉じてかちも、高橋藏相に抑へられて頭が上らなかつた。

しかし、隱忍一年、二・二六事件勃發後に至つて、俄然、得意時代が出現した。

△△の支持を得て、新官僚一派は、現狀維持派を蹴倒して、飛躍的攻勢に出づるに至つた。その結果、廣田內閣は內閣審議會を廢止して、內閣調査局の擴充强化をはかるに至つた。

內閣調査局は、行政機構の改革、議會制度の革新、內閣制度の强化、財政の改革を、華々しく發表した。

增稅の斷行、電力統制、大陸政策の强化等々その攻勢は鋭い。

藏相馬場鉄一のもとに主稅局長となつた山田龍雄は、內閣調査局の錚々たる增稅論者だつた。

正に馬場財政は調査局財政と言つても、過言ではない。

吉田は、今は新官僚の總帥と目される後藤を凌駕し、いよ〳〵薄氣味惡い睨みをかしてゐる。

4

新官僚の牙城內閣調査局の强味は、△△の支援にある。

現役軍人鈴木貞一、町部喜蔵の二人が、そのメンバーであることは、注目に値する。

吉田等は、更に内閣調査局の擴充強化をはかり、調査局長を無任所大臣にすること綜合國策の實を挙ぐるため法制局を調査局に併合すること、大藏省の主計局と調査局を合體すること等々も主張してゐる。

かうした調査局の傾向に對しては、勿論現狀維持派は痛烈に非難してゐる。官僚中にも、内閣調査局が、著しく増長し、政治勢化力することに反感を懐くものが多い。

内閣調査局は、さうした反對勢力にも拘らず、時流に乘つていよ〳〵擴充し、官界の伏魔殿となるに至つた。

それは薄氣味惡い存在である。

しかし、それは要、るに官僚であるメンバーを有する以上、如何に強大な存在となるとも、事務官以上を壁むことは出來ない。

事務官政治は、如何なる國家に於いても、繁雜と、規則と、保守の亡靈より、完全に脱することは出來ない。それの指導精神は、排他的な專門家政治以外には、出得ないであらう。

内閣調査局の活躍により、××の綜合的見識は、失はれることになることは、明白な事實となるであらう。

國民大衆たるもの、内閣調査局の動行にこそ、監視を怠らず、根本的に檢討、批判する必要があらう。

さもなければ、内閣調査局は、いよ〳〵伏魔殿としての本領を發揮し、爆彈にも優る危險至極な存在となるかもしれない。

宗教の巻

昭和十年十二月、當局に於ては、邪教撲滅の陣を擴大强化する爲に、内務省保安課に、宗教係を新設した。

十二月八日に至つて、俄然、大本教の大手入れがあつた。

また十六日には、天理教がやられた。前橋の「ひとのみち」教團支部が、廢止命令を受けた。

世論は沸騰して、「一切の新興宗教は、邪教では、あるまいか」と一應、懷疑の眼を、見張るやうになつた。

そして、とにかく、宗教復興景氣に對する反動的氣風が、宗教膺懲といふ名目の下に、社會一般から、聲援されてゐる、現象を作つた。

×

伏魔殿といふ、この怪奇的な言葉こそは、前章の、どれよりも先づ、宗教團體に於て、最も、ピツタリと、適切に、アテハマルのでは、あるまいか。

以下、伏魔殿視された、宗教團體を俎上にのせて、忌憚なく、解剖のメスを、いれて見よう。

一、成金宗教天理教を探る

屋敷を拂ふて、田賣りたまへ——成金宗教、天理教は、一體どれだけ儲けるか？

ある人の推測によれば、——昭和八年の稅務署の年所得査定は、百二萬圓となつてゐるから、事實現在は、百五十萬圓位は、あるであらうと云つて居る。他心の懷中工合を氣にしても、始まらないが——、では、天理教の財産は、いくらほど、あるものだらうか。

これ亦、ある人の推測によれば、最高七億、最低一億はあるだらうといふが、的確な計算ではなく、めのこ算だから、あてには、ならない。さて——、

×

信徒七百萬人と稱する天理教管長中山正善の所得査定減額運動に絡む贈收賄容疑事件で、同教

本部外事主任、堀越儀郎は、昭和十年十二月十一日に、任意出頭の形式で、奈良署へ同行を求められた。遂に、起訴前の張制處分で、收容されたので、今後の發展如何を注目されてゐた矢先、同月十六日！　午前六時。制私服百三十名の警官隊は、自動車、ハイヤー、バス數十臺に分乘し、拂曉の薄闇を衝いて、天理教本部に到着し、天理教廳會計、財團、經理各部と、教廳事務所の管長が日常執務する調査課と、中山管長邸、その分家の中山爲信、その外、松村吉太郎、山澤爲造、諸井慶五郎の諸幹部邸宅並に前記の堀越儀郎の留守宅及び四課長の私宅など、一齊に、家宅捜査を行ひ、多數の證據書類を押收して引揚げたのであつた。

この檢擧の內容は、税金査定額が、急激に低減したために、當然司直の眼が光つた譯で、脫税のため、賄賂への嫌疑が、かゝつたのだ。これ以外に、某重大事件が含まれてゐると傳へられてゐるやうだが、これに就いては、筆者は、知らない。

×

そこで、この所得税の問題だが、宗教團體は、所得税が、免除されてゐるのだから、管長個人の所得税との限界の混同から來たものだといふ者もあるが、その法律的解釋は、行政裁判によつて明かにされることであるから、こゝで論ずる必要はないのだ。

で、その所得税納入額は、大阪税務監督局區內では、天下の住友の次に位するといふ豪勢ぶだ。昭和七年までは、管長個人の年所得三萬三千圓と見積られて居たが、調査の結果、昭和八年には、管長個人と天理教とは、二面同體であるとの見解から、天理教本部の所得七十二萬圓と(前記の百二萬圓が、七十二萬圓に引下げられたのだ)査定されて、十七萬圓を課税されたのだ。それが、九年度の所得は、四十萬圓となり、つゞいて、十年度には、三十九萬圓と査定額が轉落したので、くさいぞとなつたのだ。

こゝで、ある二人の消息通から、聞いた話を紹介しておきたい。

その一人は――、

「天理教や金光教や大本教ときたら、經濟原則の上からまことに、表彰するに足るものがある。天理教などは、いつだつて、金が本部にあつたことはない、つまり、死藏したことはないのだ、いつもスツカラカンである。然るに一朝、サアとなると、半年の內で、百萬圓の外語學校を建てる、二百萬圓で神殿を造るといつたやうに、パツパと集めたと思ふと、撒いてしまふ、これがタワイのないことだが、經濟原則に添ふてゐるのだ。だから、金が苦もなく集まるのだ、この點では、佛教僧侶より神道僧侶の方が現代的である。現代的とは、よく經濟原則による生活を營

むといふことである。」

また、ある材木商の主人は――、

「天理教の本部には、金が降るほど集まるといはれてゐるが、近頃はなか〳〵さうも行かないらしい。以前は材木の注文が、天理教から、くると、商品を送らない前から何萬圓といふやうな大金でも前金で、どし〳〵支拂つてくれたものであるし、またその買ひ方でも、非常に、大様であつた、しかし近頃は、そういふ大名のやうな買方をしてくれず、値段の交渉もむづかしくなつたし、また金にしても、前金は、おろか他方様と同様お百度を踏まないと拂つて貰へないといふ具合になつた。これで見ると、天理教の本部も勝手元は世間で見るやうに樂ではないやうだ。萬更、拂ひ汚いだけでは、なささうだ。」

かと思ふと――、

一方では、一代の法螺ふき伊東ハンニこと松尾正直が、昭和九年五月頃、支那放浪の旅から歸朝すると、直ちに天理教本部を訪れて、彼一流の辯舌で、新東洋主義の理想と天理教主義とは、一脈相通ずる點があるから、日滿支に天理教を宣布してやると持ちかけて、僅か一年間に數回にわたつて、百萬圓餘を、引出してしまつた。しかも、これは、中山管長の内諾もなしに堀越、上

田などの役員が自由に、この大金をハンニに手渡したと云ふことだ。

この一事を以てしても、いかに、天理教の會計が、紊亂した狀態に在るかゞ、暴露されたといふものだ。否、餘りに大きな世帶だから、アキレタと、褒めておかう。

×

次に、天理教の今後の方針について、注目すべき一事を報告しておく。

今年の教祖五十年祭と、明年の立教百年祭の爲に、前以て、五年の募財期間を立てゝ一千萬圓募財計畫をしたのだが、その内譯は、五百萬圓の信徒納金、百五十萬圓の教會課金が本部に集注し、更にその間に、全國教會の負へる借金三百餘萬圓の償還方を行ふ筈で、この合計が、一千萬圓といふ建前なのだ。

これについて、天理教を代表する、某幹部の公表しない言説を特に引用してみよう。

×

「天理教の募財能力も、教祖五十年祭を以て解消すべく、この機を逸すれば、最早や、本部を充實することが出來ないから、無理にでも大募財を斷行しなければ、ならない。」

先年、筆者は、この明けッぱなしな抱負を聞いた事があるが、讀者諸賢以て、如何となすやー

まあ、これだけの殊勝な心掛けが、事實あるのなら、筆者は、喜んで、「天理教」を禮讃することにしたいと思ふ。

次にだ。

從來、諸新聞雜誌などに散見するやうな、蒸しかへし、上調子な、薄べらな、バクロのためのバクロをやりたくないから、選擧の立看板じみるが、――嚴正中立を以て、天理教の核心を解剖したいのだ。

讀者の明察に訴へる。

×

いま、かりに、天理教が、何億の私財を蓄積してゐやうが、少しは、その金を有意義に使用してゐるか、どうか。

も一歩つッこんで、天理教の教祖ミキが、私財を蓄積せよと、彼女の所謂、宗教的實踐ともいふべき經歷が教へたか、どうか。

どんな子供にでも判るやうな、「教理」そのものの解釋を、何故に、「屋敷を拂つて首つりたまへ……」なンて人口膾炙されるのか、そんな、はたらきかけをやつてゐるか、どうか。

を、檢討してみる必要が大いにあるのだ。

×

まづ順序として、

一、社會事業をやつてゐるかを調べれば、これには、可成り出資してゐるやうだ。

養德院、託兒所、盲學校、六踏園などの經營から、幼稚園、小學校、中學校、女學校、天理外語學校、女子學院（女子の外語校）の教育事業にも、莫大な經費を用ひてゐる。

その外、天理教本教師養成所である。天理教校、天理教々義講習所などもあるが、要するに、「天理教」を背景にした宣傳學校とはいへ、他の教理のものに比較して、かなり意を用ひてゐることだ。

なほ、こゝに、「天理綜合學園」の擴張充實計畫を立ててゐるさうだが、これが完成すれば、維持費だけでも年額百萬圓を要するとの話だ。

それだけでなく、

國防費にも献金するし、

また先達は、大阪二大新聞の義金募集の競争に踊らせられて、百萬圓を投げ出したことさへあるのだ。

次に、教祖、中山ミキ（美伎子とも書く）の歴史的なる「過去の生活」を抄して、そこに何を教へてゐるかを指摘してみたい。

×

「我が教祖は、寛政十年四月十八日、大和國三昧田村の前川家に誕生あらせられました。前川家は、領主藤堂家より、無足人、（筆者註、田地を持たぬ農夫）として、名子帶刀を許されて居りました豪家であつて、父は半七、母は絹子と云ひ、教祖は二男二女の長女で、名をミキと申されました。誕生の日、同家の空に五彩の瑞雲が棚引いて、里人に奇異の感を起させたと傳へられて居ります。」

――から、「教祖傳」は始まるのだが、たとへどんな雲が棚引かうとも、こゝでは、別に有難い譯でもないから略するとして。

彼女、の逸話を、「教祖傳」中より拾つて見よう。彼女は、文治四年、二十四歳で、長男、善右衛門（のちに秀司と改む）を生み、同八年には、長女政子を生み、同十年には、次女安子を産んだ。かうしてお産をつゞけたが、母乳が豐富だつたので、近隣の乳不足の幼兒に飲ませてゐた。ところが、次女を生んだ翌年に、隣家の足達源右衛門の妻が、一子照之丞を生んだ。今までにも、この足達の妻は、母乳不足で幾人もの子供を亡くした位だから、照之丞もこれがために糸のやうに痩せ衰へてゐた。

ミキは、この時、八歳を頭に四歳と二歳の子持ちでありながら、見るに見かねて照之丞を預り育てることにした。

その後間もなく天然痘が流行して、不幸にも照之丞はこの病に罹つたのだ。當時、これを黒疱瘡といつて死ぬ者にきまつてゐたものだけに、その兩親は非常に歎き悲しんでゐるを知つて、ミキは、三島村の村社春日神社に、

「どうぞ、隣家の小兒の生命を助けて下さい。私の長男は、相續人で、是非なきも、殘子二兒の生命を、その代りに差上げます、それでいけなければ、わが一命をも差上げます。」

と、祈願したのだ。

その効驗あらわれてか、さしも危期に瀕してゐた照之丞は、恢復したのだが、わが子の次女安子は、翌二年死し、四女常子は、三歳で歿したのであつた。

これは、神明の加護とはいへないまでも、自分の愛兒を犧牲にして、他人の子供を助けんとした氣持は、宗教家として耻ぢない態度だと云ひたいのだ。

それから、ミキが四十一歳の冬、中山家には大事件が突發した。

×

「天保九年十二月二十四日、長男秀司足痛烈しく、十善兵衛の眼疾輕からず、教祖（ミキのこと）また腰痛を覺えることしきりなり。すなはち、有徳の修驗者長瀧村の市兵衛を招き、一家息災の祈禱を乞ふ。教祖加持代となりて、神座に就けば、容姿頓に變じ、嚴然として、神威四邊を拂ふ。修驗者驚耀慴伏し、一座また俯伏して仰ぎ見ること能はず。教祖宣はく、

我は是元の神、實の神、世界一列を救はんとして、表に現れたり。美伎の身は、神の社として貰ひ受けむ。

と。夫善兵衛をはじめ、一族皆肅然として聲を發する者なし。ついで、

中山家の家財資産を、賣却し、貧者を救濟せよ。

と神宣あり。一族その深遠の理を悟るによしなく、鳩首凝議の上、この物質救助の命令を拒否せしも、神命畏くして、默しがたく、同二十六日に至り、遂にこれを拜受せり。」

これは、わざと、古文體なる、「天理教々義要領」から、引用したものである。古いし、筆者が少々、字句を略した所もあるが、要するに、こゝで、注意したいのは、彼女が——、

神憑（天啓）によつて、第一に叫んだ要求は、中山家の家財資産を賣却し、貧者を救濟せよ、であつたことだ！

筆者は、天理教の提灯持ちをしたくて、教祖の傳記を抄録したのでもなく、また、「貧者を救濟せよ」なる善行を表彰したいためでもないのだ。即ち、「この精神」が、

現在の天理教にあるか、否やを檢討したいからなのだ。

×

世人は、ミキの神憑りを、宗教的偏執狂であるといふが、しかし、天理教側にあつては、無論、こんなことを思つて見ただけでも、怖ろしい冒瀆に違ひない筈であり、それどころか、そこに浸すべからざる神性に拜跪するのであらうから、それ故にこそ、まことに、

「貧者を救濟せよ」なる、天啓なるスローガンに對して、今日の天理教は恥ぢるところがないかと——聲を大にして詰問したくなる。

×

卑近な例を上げる。

筆者の知人某、支部教會の教師から切にすゝめられて、やつとの思ひで、金を工面して、學校へ入るべく本部に行つたものだが、フとしたことから、幹部の豪勢な生活ぶりを見て、彼は奮然として直ちに歸京してしまつたのだ。

この事實は、

何を、意味するものであらうか。

教祖の所謂、「貧者を救濟せよ」の神言とは、あまりに遠い、かけ離れた、實踐的ノ盾さを、如實に、暴露してゐるではないか。

×

ことほど、左様に、信者を、喜ばせ、狂はせてくれる、天理教本部こそ、ふとるばかりで、さぞ血壓の高いことだらう。

眞の宗教精神を生かす可く、「屋敷を拂ふて田賣りたまへ」の——錯誤におちてはならない。

筆者は叫ぶ。

天理教よ、天理教管長よ、大幹部達よ。眞の「天理」の大道にかへれ。

そして、宗教精神で、世を導くことを忘れるな。

徒らに、殿堂の大きさを誇るな。信徒者の多數を誇るな。それは却て、「天理」に違背した證左にさへ見られ、識者の蔑視にしか價値がないではないか。徒らに、現狀を延長することは、天理教本部が、「完全なる伏魔殿」に、なることである。

休魔殿——天理教本部。

豫定の紙數が、きたから、以下、省略する。

筆者、いたづらに、天理教を誹謗して、發いたのではない。

第三者として、天理教を嚴正に批判するのだ！　諒せよ！

二、「神の靈統」女性群

昭和十一年八月下旬の全國各新聞は、筆を揃へて、世にも、奇怪なトップ・ニュースを報道した。

元女官長島津女史
不敬容疑で留置さる
『神がゝり』で奇怪な放言
中心人物三名も檢擧
或は――、

怪法座の不敬に
靈媒者は戰く
なほ醒めぬ狂信島津女史

以下、順序立てゝ、『神の靈統』女性群の裏面を描いてみよう。

昭和の伏魔殿的存在である、彼女等グループは、餘りにも、社會的に、名流婦人でありすぎた。それだけに、世人が、驚異の眼を睜つたのも、當然ではある。

×

警視廳特高部では、邪教一掃に努力してきたが、最近、名流婦人を中心とする團體が、不敬なデマを飛ばしてゐることを探知したのであつた。そして、ひそかに、內偵中、この名流婦人の中に、東京目黑區下目黑四ノ九一八、元皇后宮職女官長、島津はる子女史(五十九年)らの名が登場し、流說が一層强調されて行くので、特高部では、事態を重視した。

八月十二日。その中心人物と見られる、東京澁谷千駄ケ谷五ノ八八一、退役陸軍少將嘉悅敏氏(嘉悅孝子女史の實弟)方同居、三重縣鈴鹿郡坂下村字板下四一四、角田つねさん(四十一年)を、三重縣龜山町で、警視廳特高部の保坂警部が取押へて連行、早稻田署に留置した。

同署に、保坂警部、齋藤警部補が出張、取調べの結果、島津元女官長の外、麻布區笄町一三四前代議士高橋保氏夫人むつ子さん(四十五年)澁谷區千駄ケ谷、集散會主富下祐氏長女とん子(十九年)さん、――(假名)――の三名も、中心人物であること判明、當局は、愕然としたが、島津女史が、元宮中の重要椅子についてゐた關係から石田警視總監は、宮內省當局の諒解を求めた上、八月二十六日午後――島津女史を青山署に連行した。

高橋氏夫人は、六本木署に、とん子さんは、原宿署に、それ〴〵檢擧留置された。

×

八月二十九日。

警視廳特高第二課は、東京地方檢事局市原檢事の指揮を受け、齊藤警部補、安倍警部補の二隊に別れて、島津女史宅及び高橋保氏方の嚴重な家宅捜索を行つて、書類、日記等の參考品を多數浚收した。

×

囹圄にある、島津女史は、迷夢なほ醒めず、取調べに對して、「自己の信ずる不解た靈の世界」ばかり說いて、係官を、惱ましてゐた。

二十九日夜までの取調べによつて、外に靈媒者數名あることが判明し、靈媒者の中には、最初は、神靈の不可思議さの擒となり、信者として、法座に出席したが、餘りにも不敬の言辭が多いので畏れて、法座グールプを離れたものもあつた模樣で、これらの人達を參考召喚して、證據固めを行ひ、島津女史、高橋むつ子さん、角田つねの三名を不敬罪として送局することゝなるらしい。なほ、富田倭文子さんは、不敬罪の關係が薄いので、一應取調べの上、近く釋放される筈となつた。

左に、檢擧について、上田特高部長及び毛利特高第二課長の談を揭げて見る。

×

現在までの取調べによると、今回の檢擧の中心人物である角田が、二年前に、三重縣龜山で、靈感によつて、東京に島津といふ偉大なる女性があることを知り、「靈の交感」を望んで上京して島津に會ふと、島津もすでにその靈感があつたので、二人は、神靈の不可思議に驚愕して、靈の世界に入つたといつてゐる。

島津は、明治神宮ミソギ會の會員なので、同會員の高橋、富下の兩名を仲間にし、角田、島津高橋の三名は、それ〴〵神の靈統と稱し、各祭壇を設け、島津、高橋の兩家で時折り會合し、國體明徵について談し案りに神託なりと僭稱し、荒唐無稽の事項を放言し、各種の生靈、邪靈、怨靈などの靈感ありと稱して人を惑はす言動あるのみならず、甚だしきは、畏くも、皇室に對し奉り不敬にわたる言說があることを探知し、檢擧取調べを行つたものである。四名は、個人について、一、二病氣治療を行つた噂もあるが、他の類似宗敎のやうに、それが目的ではなく、宗敎團體のやうな組織をつくる氣持もなかつた、たゞ田舍の巫子のやうに、神がゝりになり、お互ひに話し合つてゐたゞけで、一、二名のほか信者といふ者もない、かの女たちは、政治問題を論ずることが好きで、國體明徵問題について、多く論じてゐるが、同問題で、畏くも、皇統について

論及し神がゝりであるため、不敬の言辭が多いので取調べに當つてかの女たちの交際には、名流婦人が多く、この不敬の言が世間に漏れて、二・二六事件以來の不安が人心に影響することをおそれて、檢擧した、いはゆる類似宗教としての取締でなく、不敬罪嫌疑の單純な事件で、精神鑑定の結果、どうなるか判らぬが、この不敬の話をきいた第三者も調べてをり、不敬罪が成立すると考へてゐる。

かの女たちが、怪法座の前で、何をやつたか――、それは、讀者の御想定に一任する。

靈の交感に結ばれた一團が、政治論から、不敬な言辭にわたつたことは、想像に難くない。

では、かゝる、名流婦人の狂的な宗教行動の裏面に立つて、不可思議な糸を操つた、怪人物――角田つね(四十一年)とは、一體どんな女か。

彼女は、元產婆で、いつの間にか、祈禱師になつた、狂的宗教信者である。

舊東海道筋、三重縣鈴鹿郡坂下村大字坂下角田宗十郎(七十五年)の長女として生れた。

同村小學校を卒業後、明治四十三年三重縣四郷村、伊藤製糸工場の女工となり、六年間勤めた揚句、大正七年春、產婆試驗に合格、翌年同郡、關町で開業したが、持病の腹痛が昂じたので、郷里に歸り、鈴鹿峠下の岩屋觀音にこもり全治してから、東京に出て、看護婦となり、同十二年秋、歸村、產婆業をつゞけてゐた。

昭和二年三月頃から、嘉悅少將等の「きよめの會」に共鳴し、家人の反對を押切つて上京、同會に入會したものだが、その後は、故郷との音信も杜絶へ勝ちだつた。

實家には、つねの兩親の外、弟の留男(三十歳)が、農作に從事してゐる。「助產婦角田つね」と看板だけは、いまだに煤けて、殘つて居り一見舊家らしい建物である。

實弟は語る。

「姉は、龜山の、きよめ會」の支部へは、よく來るそうだが、家へは、さつぱり寄りつかない。去る日、辨天瀧での講習會に來た時一晩泊つたが、きよめ會のことは何もいはず、聞いても、お前達には、判らないといふ話だつた。自分で勝手なことをしてゐるのだから、放つてあるのです。」

在郷陸軍少將、「きよめの會」會長嘉悅敏氏(七十歳)は語る。

「きよめの會を開いて」最早十三四年になる。會の主旨は、精神修養が目的で、知名の士も多數ゐる、毎年八月一日から一週間、三重縣龜山町にある瀧で、「瀧の行」をやることになつて居り、去る十二日自分が坂下村から歸京すると共に五六年前からの會員で、同村の未亡人である、

角田つねさんが、警視廳の警官に引致され、同會員の澁谷區、皇訓教會理事富田貢氏の長女倭文子さんも引致されたと聞いて驚いてゐるところです。

島津ハル子さん、高橋むつ子さんは、法華經の信者で、全然私の會員ではありませんが、角田が、これ等の人々と交際してゐたゝめに呼ばれたものと思ひます。富田倭文子さんが呼ばれたのは、角田と同一會員のためだと思ひますが、決して島津さん等と關係はないと斷言します。」

或程度まで、この、名流婦人を中心とする一團の不敬なデマを飛ばした宗教行動の內容は、想定し得るのであるが、筆者は、それを、批判的にも、實話小說的にも描けない。

事件が、事件であるだけに、それは、絕對不可能のことである。

名聲と門閥を誇る、怪法座の伏魔殿は、筆者が發くまでもなく、鋭い當局の檢擧のメスに、靳り崩されたのだ。

怪女——角田つねの、世にも奇怪な、「靈の交感」は、かの女たちグループの核心であり、動脈であつたのだ。

狂信島津女史の、反省と覺醒を希つて、ペンをおこう。

（終）

御注文は　代金引替は御容赦を　切手代用は二割増に　願ひます

吉岡義一郎著　非常時日本の外交陣　定價十錢（送料二錢）
高倉晃著　逆卷く太平洋　定價十錢（送料二錢）
小牧琢磨著　財界巨星出世譚　定價十錢（送料二錢）
山門王吉著　怪奇犯罪實話集　定價十錢（送料二錢）
東亞書房編輯局編　見よ！此躍進日本の姿　定價十錢（送料二錢）
東亞書房編輯局編　常識讀本・人生百課事典　定價十錢（送料二錢）
山門王吉著　明朗爆笑大會　定價十錢（送料二錢）
牧山允著　女スパイの暗躍　定價十錢（送料二錢）
秋月正雄著　要領百パーセント戰法　定價十錢（送料二錢）
中村武郎著　東西偉人逸話集　定價十錢（送料二錢）
東亞書房編輯部編　皇國軍人に憩ふ　定價十錢（送料二錢）
陸軍中將堀內文次郎閣下述　大西郷を語る　定價十錢（送料二錢）
箱館小史著　百年後の人種戰爭　定價十錢（送料二錢）
奈緒順著　政界財界膝栗毛　定價十錢（送料二錢）
黑田正隆著　世界の景氣は何時爆發するか　定價十錢（送料二錢）

發行所　東京市芝區三田四國町二六番　振替東京八八三八〇　東亞書房

今評判の東亞書房の十錢本

野村繁著 横から見た華族生活 定價十錢（送料二錢）
大澤光幾著 西園寺公望 定價十錢（送料二錢）
森本澄夫著 社會常識讀本 定價十錢（送料二錢）
秋月正雄著 列國は日本をどう見る 定價十錢（送料二錢）
田淵茂著 靈界物語 定價十錢（送料二錢）
時田英雄著 宇宙及生物その起源と終滅 定價十錢（送料二錢）
南城政夫著 稅金から見た長者番附 定價十錢（送料二錢）
高倉晁著 斷乎戰ふべし 定價十錢（送料二錢）
城北隱士著 昭和快傑傳 定價十錢（送料二錢）
奈緒順著 世界の謎 定價十錢（送料二錢）
森村辰雄著 無産黨は何處迄伸びるか 定價十錢（送料二錢）
小谷乘仙著 現代佛教は何處へゆく 定價十錢（送料二錢）
內藤伸二著 南洋・我等の生命線變 定價十錢（送料二錢）
太田義孝著 鄕誠之助の正體 定價十錢（送料二錢）
藤原達策著 現代親分乾分物語 定價十錢（送料二錢）

發行所 東京市芝區三田四國町二六 振替東京八八三八〇番 東亞書房

今評判の東亞書房の十錢本

海南隱士著 覺悟せよ！次の大戰爭 定價十錢（送料二錢）
藤原達策著 支那は動く 定價十錢（送料二錢）
國際問題研究會著 日本の財政・何年戰爭に堪えられるか 定價十錢（送料二錢）
沼上良太郎著 必ずあたる新商賣往來 定價十錢（送料二錢）
山門王吉著 一讀鬼氣！妖奇怪談集 定價十錢（送料二錢）
白木屋專務 山田忍三述 立身出世虎の卷 定價十錢（送料二錢）
太田義孝著 財閥功罪史 定價十錢（送料二錢）
奈緒順著 世界珍奇怪奇見世物 定價十錢（送料二錢）
黑田正隆著 極東の今日戰爭か平和か 定價十錢（送料二錢）
海南隱士著 明日の世界 定價十錢（送料二錢）
岡山啓之助著 戰線に躍る日英米の勝敗 定價十錢（送料二錢）
城南山人著 東日と讀賣の暗鬪 定價十錢（送料二錢）
東亞書房編 二・二六事件眞相の眞相 定價十錢（送料二錢）
川上康吉著 誰にも出來る貯金法五十種 定價十錢（送料二錢）
內藤伸二著 財づる物語り 定價十錢（送料二錢）

發行所 東京市芝區三田四國町二六 振替東京八八三八〇番 東亞書房

御注文は

代金引替は御容赦を
切手代用は二割増に

願ひます

大友壯三郎著　日本の伏魔殿を發く　定價十錢（送料二錢）
城南山人著　官僚政治に迫る　定價十錢（送料二錢）
秋月正雄著　千波萬瀾の生涯・人間高橋是清　定價十錢（送料二錢）
齋藤一郎著　遭難した内大臣齋藤實とはどんな人か　定價十錢（送料二錢）
頭山滿翁述　重大國事の秘密を語る　定價十錢（送料二錢）
村田和雄著　迫る！歐洲の大戰　定價十錢（送料二錢）
五島富士夫著　國際ニュース世界各國珍聞奇聞集　定價十錢（送料二錢）
滿蒙事報社編　謎の秘境・蒙古の全貌　定價十錢（送料二錢）
秋本孝雄著　若返リ法とホルモンの話　定價十錢（送料二錢）
山門王吉著　異色五人女性　定價十錢（送料二錢）
斯波雪夫著　國際情緒・ハルビン物語　定價十錢（送料二錢）
片山哲平著　映畫スタア千夜一夜　定價十錢（送料二錢）
山門王吉著　戰術奥の奥・外交は是で行け　定價十錢（送料二錢）
加藤弘一著　爆彈・護れ祖國日本　定價十錢（送料二錢）
奈緒順著　世間の裏をのぞく　定價十錢（送料二錢）
須山滿洲男著　風雲を孕む外蒙古　定價十錢（送料二錢）

發行所　東京市芝區三田四國町二六番地　東亞書房　振替東京八八三八〇番　電話三田(45)三九八九番

滿蒙事報社編

學資と就職の心配ない 滿洲官費給費學校案内

定價五十錢　送料五錢

小學校又は中等學校を卒業して更に上級學校へ進まうとする者にとつての難關は何と云つても學資です。本書は學資のいらない然も就職率は百パーセントといふ滿洲の官費給費學校を詳細に總切に紹介したものです。

發行所　東京市芝區三田四國町二六　東亞書房　振替東京八八三八〇番　電話三田(45)三九八九番

滿蒙事報社編　定價五十錢（送料五錢）
滿洲官費給費學校案內

滿蒙事報社編　定價二十錢（送料三錢）
小資本で出來る滿洲の職業百五十種調べ

滿蒙事報社編　定價二十錢（送料二錢）
人を求むる新大陸は招く
滿洲の就職手引き

滿蒙事報社編　定價二十錢（送料二錢）
蒙古の全貌
謎の內蒙古
秘境外蒙古

伏魔殿を發く
【定價十錢】

昭和十一年九月十九日印刷
昭和十一年九月廿二日發行

不許複製

著者　大友莊三郎　東京市芝區三田四國町二六
發行者　角田恒
印刷所　東京市牛込區山吹町二ノ五八　東亞書房印刷部
東京市芝區三田四國町二六
發行所　東亞書房
振替東京八八三八〇番
電話　三田　三九八九番

Printed in Japan

東京 東亞書房 發行